



研究テーマ：教育における超越の問題

研究者：藪内 聡和

YABUUCHI Toshikazu

(工学部機械電気工学科 教授)

【研究・開発の目的】

教育はどのようにあるべきかを、哲学史上の様々な思想をもとにして考察する。特に、フレーベル、デューイ、ハイデガー等の哲学を読解して、超越の問題が教育思想にどのように関わるかを考究する。

【研究・開発のきっかけ】

人間は、超越的なもの、例えば神との関わりで人生を歩むと考える。また人生は目に見えないものの世界との関わりも重要である。とすれば、人間の成長をうながす教育も、超越的存在や目に見えないものとの関わりが必須となる。この関係を明らかにしたい。

【研究・開発の概要】

現在は、フレーベルにおける人間と神との関係を考察している。フレーベルによれば、人間の教育とは神と自然と人間との統一であるという。この統一にあって、どのような教育がなされるべきかを探究している。

【研究・開発の特色】

超越者や、死者を含む目に見えないものの教育への関わりを考察している点である。これは、道德教育の内容の「美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること」に関わる。

【今後の展開】

フレーベルの哲学は、神との統一を求めるという点で神秘主義に属するであろう。フレーベルの神秘主義を、幸福と義務の観点から考究する予定である。その結果は、道德教育をはじめ、教育のさまざまな面で応用できるであろう。

【今後の課題】

積極的にであれ、消極的にであれ、ハイデガーとデューイも超越の問題に取り組んだ哲学者である。これらの哲学者や、超越を重視した他の哲学者を研究しつつ、その結果を教育に応用したい。

【地域・企業へのメッセージ】

私の研究テーマは「こころの力」を涵養する基礎となるものである。教育では知識をえるとともに、「こころ」が相まって成長しなくてはならない。私の研究成果を日本文理大学の教育に生かし、豊かな「こころ」をもつ学生を育成している。